

県政の防犯・安全への取り組みの一環

防犯・安全への取り組みは県政としても地域環境改善の第一の課題。崎山議員が3年前から取り組んでいる与儀ガソリンタンク跡地一帯の住宅地への防犯灯の設置活動。粘り強い取り組みで、着々と設置が実現し、今後も積極的に活動を続けるとしています。



古蔵小校区に防犯灯設置進む
粘り強い活動に成果着々

照らしたいもの



記者席

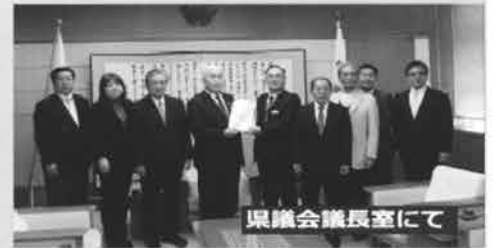
○…自身が住む、那覇市の「与儀タンク跡」地域に防犯灯を設置する活動を続けている崎山嗣幸県議（社民・社大・結）。団場、与儀、古波蔵の3地区が混在し、行政サービスが行き届きにくいという。地域住民の瑞慶寛尚さん、平良昌史さんと「設置する友の会」を立ち上げ、設置を進めてきた。2017年度中には累計で39基設置する予定だ。「近くに古蔵小もあり、明るい場所が増えることは安全、安心につながる」。地域を「照らす。活動を今後も続ける構えだ。

県管理用地の伐採、予算化

国場地域にある県管理用地の草木が繁茂し、同地域に住む嘉数良雄、金城栄子さん宅周辺に「ヤステ」が大量発生。崎山議員は予算特別委員会で、県から新年度早々に、永山防災課長に伐採を約束させました。



近況報告



県議会議長室にて

久米島の振興を要請

久米島町長（大田治雄氏）らと崎山議員は、現在久米島町の抱える諸課題（久米島空港運賃の低減や「フェリーくめじま」代替船として高速船の導入など）を、新里米吉県議会議長へ要請しました。

漁業信用基金協会の体制強化を



副知事室にて

県漁連会長が浦崎副知事へ要請

崎山議員は上原竜一県漁連会長とともに、新鮮な海産物を供給する漁業者への財政基盤確立のため、漁業信用基金協会の体制強化を要請しました。浦崎副知事は漁業者への理解が深く、即断で2018年に体制強化実現を約束しました。

船員確保で海運・水産業の育成を

去る1月、全日本海員組合の大崎沖縄支部長らと崎山議員（海員組合政治参与を務める）は、沖縄の海上輸送と水産業の発展のため、船員確保の要請を県の川満企画部長へ行いました。



要請する海員組合大崎支部長（中央右）

泊セリ市場視察



泊セリ市場の説明を受ける崎山議員ら。

崎山議員は、赤嶺副議長や、上原県議、中村県議らと、泊セリ市場を視察。県漁連の島田考査役らから現状説明を受けました。泊漁港は、マグロ漁や一本釣り漁船の拠点港として賑わい、生鮮魚介類の安定的供給の拠点の役割が求められています。一方、市場開設から40年が経ち、施設の老朽化と狭隘化で、衛生面や利便性などの問題が山積。県の方針に基づき、高度安全衛生施設整備の必要性を痛感したようです。

高度安全衛生施設の整備を



平和な沖縄、県経済活性化と県民生活向上に取り組むよう要望書を提出した。(2018/12)

2019年度
予算要望書
を提出

知事を支え、平和な沖縄、
経済振興、県民生活向上を

社民・社大
結連合

崎山県議、玉城県政にエール

2019年度の概算要求時期も迫る中、崎山議員の属する「社民・社大・結連合」会派は、玉城知事に予算に関する要望書を提出しました。

主な内容は、辺野古新基地反対の闘い、アジア戦略構想の推進、離島振興、子育て支援と子どもの貧困対策、先端医療推進など多岐にわたり、県経済振興や県民生活向上を重点的に取り組むよう要望しています。

いま県の経済政策は、特に入域観光客が958万人、観光収入が6603億

円、クルーズ船寄港も515回と大きな伸びを示しています。完全失業率も6.8%から3.8%へと3%改善。有効求人倍率も0.4倍から1.11倍へと伸び、農業生産出荷額の伸び率も全国一。子どもの貧困対策でも30億円の基金創設し、県政の柱に位置づけ高く評価されています。

こうした中、会派の2019年度予算要請に知事も、要望はほぼ自分の公約であり、会派の要望を前向きに受け止め、実現に取り組む事を約束しました。

クルーズ船第2バース
建設で知事と意見交換

那覇港管理組合議会の議長を務めている崎山議員は、玉城知事の就任後すぐに、那覇港の施設充実と活性化のため知事と面談。特に年々増加する大型クルーズ船寄港に対応する大規模な第2バース（岸壁）建設めざし、国への強力な補助要請などに取り組む事を確認しました。



知事と面談、大型クルー船が接岸できる大規模施設建設で意見交換した。(2018/11)



国も裁判所も無視できない圧倒的な民意を

辺野古県民投票 2/24 を成功させよう。



崎山議員、学習会を開催

県民投票の意義を理解するため、学習会には多数の支援者が参加した。(県議会会議室)



学習会に県民投票の会の元山仁士郎代表を招いた。

県民運動で支えよう玉城県政

2019年明け、いよいよ「辺野古新基地建設への意思表示を行う」県民投票が来月に迫ってきました。最大の意義は、新基地反対の民意を、国も裁判所も否定できないほどの圧倒的な意思を示し、新基地工事を止める事です。一部の市町村長、議会の反対もありますが、地方自治法に基づく県民投票条例を拒否する

ことは、有権者の投票権の剥奪です。崎山議員は支援者との学習会を企画するなど、積極的な活動を展開してきました。

玉城県政と県民運動をしっかりと結びつけて、新基地建設を断念させるまで闘い抜きましょう。



『全学徒の碑』補足版設置

問題提起した崎山議員の努力実る

元全学徒の会の宮城政一郎さんが、崎山議員に要請していた、糸満市摩文仁の「全学徒の碑」に犠牲者数を刻銘する課題が、実現する運びとなりました。

崎山議員の義姉(トミ子の兄も) 県立2中2年生の時、鉄血勤皇隊に動員され摩文仁で亡くなっており、住民を巻き込み熾烈を極めた沖縄戦は、師範学校、高等女学校、実業高校など21校の14歳~19歳までの若い命1,938名をも奪いました。何の法的根拠もなく学徒を戦場に送り、犠牲を強いた国の責任は計り知れません。

議会で取り上げ、要請が叶った崎山議員の努力に感謝するため、元昭和高等女学校の吉川初枝さん(90歳)と上原はつ子さん(89歳)が、県議会を訪れました。県は8月完成を目途としており、今後は補足版の内容などを注視していきたいとしています。



吉川さんと上原さんからお礼を受ける崎山議員。

記者のメモ

学徒隊を悼み非戦誓う



○…沖縄戦で動員された「なくなった学徒隊名などが刻まれた」全学徒隊の碑に犠牲者数を記載することが決まり、感激する崎山嗣幸県議(社民)大結那覇市・南部離島区。平和ガイドを務める義姉が鉄血勤皇隊で動員された兄を亡くしており「生きた証し」として犠牲者数の記載を求めていた。6月定例会の代表質問で県に対応を求めたが「学徒隊の正確な戦没者数を示す資料がない」と後ろ向きだった。「記載を求めてきた元全学徒の会の熱意が県を動かした」と喜び、非戦の誓いを新たにしたい。



大きく伸びゆく沖縄のクルーズ観光

沖縄の課題は何か、崎山議員米国マイアミを視察

沖縄県は「東洋のカリブ海」構想を掲げています。特にクルーズ船寄港回数は大きく伸び、クルーズ観光新時代への、沖縄県の受け入れ体制の強化が急がれています。

このような現状を踏まえ、崎山議員が議長を務める那覇港管理組合議会は、議員・職員13名で米国マイアミを視察、クルーズ本社を訪れ意見交換を行いました。

意見交換では沖縄への誘客、那覇港バースの整備、税関手続きなど様々な課題や問題点が出され、今後はこれらを県としてどのように克服、強化していくかが求められます。

マイアミのクルーズ船バース



アジアクルーズ市場へ押し寄せる

沖縄への寄港回数、18年は662回を見込む

アジアのクルーズ市場は欧州に次いで世界第4位にまで成長し、今後も拡大を続け、カリブ海や地中海クルーズ市場が20年かけて成長してきた道筋が、アジア市場でも短期間で押し寄せるものと予想されています。那覇港においても2017年の寄港回数は224回、県内全体では515回で、2018年はさらに伸びる勢いで、29%増の662回を見込んでいます。



クルーズ本社にて記念品を交換する崎山議員

那覇市近海への相次ぐ米軍戦闘機墜落 崎山議員らが沖縄防衛局へ抗議



相次いだ米軍戦闘機の墜落に危険極まりないと防衛局(右)へ抗議する崎山議員ら会派のメンバー(左)

2018年6月に米軍のF15戦闘機が那覇市の南の海上に墜落し、また11月にはFA18戦闘攻撃機が那覇市の海上280キロに墜落しました。現場海域は、漁船・航行する船舶の多い海域で、一歩間違えば大惨事となる危険極まりない事故です。崎山議員ら県議会の社民・社大・結連合会派は、米軍へ弱腰の日本政府の出先沖縄防衛局へ、激しい怒りを込めた抗議を行いました。政府は、事故の度に相変わらず「安全管理の徹底と情報提供、再発防止」繰り返すだけで、崎山議員は「防衛局は、県民でなくどこを向いて仕事しているのか」と、怒りを通り越して、うんざりしたようでした。

福島瑞穂参院議員が来沖副知事と面談 崎山議員が同行

参議院議員の福島瑞穂さんが、このほど沖縄を訪れ、崎山議員の案内で富川副知事と面談しました。副知事と福島議員、崎山議員は、米軍基地の実態や沖縄経済戦略構想などを意見交換。福島参議員も沖縄発展へ尽力すると話していました。



基地の実態や沖縄経済の発展をめざし、力を尽くすと話していた。

野党顔負け



○…来年2月に首里城正殿や沖縄美ら海水族館が県に移管されることを注目する崎山嗣幸県議（社民・社大・結）。

記者席

収支の見通しで不透明な部分があり「県民の財政負担があってはならない」と心配し「県民への利益が大前提だ」と語る。特に約181万人の来場者数を誇る首里城へのこだわりは人一倍強く、県に対し「首里城単独で収益を伸ばす仕組みにしなければならない。まずはきちっとした試算を出す必要がある」と注文。野党顔負けの論陣を張る。

有料施設を管理・運営

移管後も施設の所有権は国が持ちますが、県が国に土地と施設の使用料を払った上で、首里城正殿や水族館の有料施設を管理・運営するという事です。

沖縄を代表する人気観光施設である首里城と美ら海水族館を県が主体的に管理することで、県は観光、文化振興に関連付けた活用を展開する考えです。

首里城 美ら海水族館



県民のより良い利活用と 歴史的・文化的価値の向上を



沖縄の主要な観光施設

崎山議員がかねてから議会の質問などで、県への移管を求めていた、沖縄の主要な観光施設、首里城と美ら海水族館が、来る2月にも移管が実現する事になり、いま国と県が具体的作業に入っています。

首里城入域観光客は181万人、美ら海水族館は378万人と沖縄観光の目玉となっており、現在国の管理となっています。これらの施設は、県移管によって、より良い観光収入の利活用とともに、さらに歴史的・文化的価値の向上が図れないか、大きな期待が寄せられています。

横浜港

帆船での 船員訓練を見学



帆船日本丸で船員養成訓練を見学した。

昨年4月に、崎山議員は客船寄港回数日本一を誇る横浜港を視察。同港は物流・生産機能や、観光文化機能を有し、個性的デザインと斬新な構造の、日本の代表的客船ターミナルとなっています。那覇港のこれからの整備、発展に多くの手がかりを与えてくれるものです。

視察した崎山議員は、国指定重要文化財の帆船日本丸で船員養成する訓練を見学しました。

視察報告

北海道

防災施設で 震度7を体験



防災体験施設で震度7の揺れを体験した。

社民・社大・結連合会派は昨年7月に北海道を視察。衛生管理型施設のウトロ漁港、延期となっている沖縄の山原・西表の世界自然遺産登録に向けて、オホーツク海と知床沿岸の生態系などを視察しました。

また親子での絵本読み聞かせ施設「札幌えほん図書館」、防災学習体験施設の「千歳市そなえーる」等を学習視察しました。特に模擬体験施設では、震度7の激しい揺れに全員が驚いていました。

札幌えほん図書館などの児童施設も充実していた。



「少年よ大志を抱け」で有名な北海道開拓の父「クラーク博士像」の前で



民意 力強く

新基地埋立県民投票 反対71.7%

結果無視の政府、民主主義を否定

2月定例
県議会

崎山議員は県民投票、消費増税、沖縄戦、非常勤等の課題で一般質問に立ちました。



一般質問を行う崎山議員

2月24日投開票された県民投票の結果は埋立反対が43万4千票余、71.7%の高得票を獲得、県民の新基地反対への民意が力強く示されました。

今議会で崎山議員は投票結果を踏まえ、その意義や今後の県政について知事に質問。知事は「十分な民意が示されたと思うし、結果を日米両政府へ通知する」とのべ、「強行されている新基地建設埋立の中止をさらに強力に求めていく」と決意を述べました。

政府は県民投票の結果に関わらず埋立続行を決めていたとし、民意を無視、民主主義を否定しています。



日米両政府へ、さらに強く中止を求めていく、と玉城知事

臨時非常勤職員 一時金等の支給へ

法改正に基づき、早期実現を

崎山議員は、県庁で働く6,866人の臨時非常勤職員の時給支給について質問。これらの職員は地方行政の担い手であり、地方公務員法や地方自治法が改正されたことで、会計年度任用職員へ移行し、任用・勤務条件を適正に確保する必要があります。

全ての移行ではないが、特に一般非常勤職員については早期の待遇改善が必要です。これに対し、県は実施時期を2020年4月を目途としています。

新基地建設は破綻

大浦湾に軟弱地盤、無謀な工事



県民投票を呼びかける崎山議員

安倍首相はついに大浦湾の軟弱地盤を認めました。その対策は海面下90mに76、699本の砂杭（東京ドーム5個分）打ち込み、工期も13年以上延び、費用も膨大になります。国内に作業船はなく、環境保全の上からも、まれに見る無謀な工事となります。

県民の意思を踏みにじったうえに、ここまでして基地の建設を強行する国の姿勢は県民の怒りに火を注ぐものです。

記者のメモ

沖縄戦継承の願い届く



○…太平洋戦争の戦災状況を掲載する総務省のウェブサイトに沖縄県の被害概要が掲載されたことを「一歩前進」と評価する崎山嗣幸県議（社民・社大・結、那覇市・南部離島区）。1977〜2009年度に総務省が作成した「全国戦災史実調査報告書」に沖縄県だけの記載がなく議会で繰り返し問題視してきた。翁長雄志前知事も「残念だ」として総務省に要請し「工夫したい」との発言を引き出した。崎山氏は「歴史は後世に継承しないとけない。翁長氏の思いも結実したと胸をなで下ろす。

沖縄戦災記録 国がようやくHPに掲載

沖縄戦の実相が国の公式記録から欠落している問題で、崎山議員は史実を後世に誤って伝えてはならないと、県議会で取り上げ記録の補正を求めてきましたが、総務省はようやくホームページに掲載しました。

太平洋戦争による全国の被害者報告書や全国戦災史実調査報告書には対馬丸撃沈や学童疎開、10・10空襲、戦争孤児、戦没者数まで抜け落ちています。

公式記録補正へ一歩前進

史実を後世に誤って伝えてはならない

崎山議員は、今回はHPへの掲載で、「一歩前進」と評価していますが、政府の公式記録に補正されるまで追求しようと、玉城知事にも国への働きかけを要望しました。

沖縄戦災、HPで公表

総務省 冊子追記は予定せず

総務省が1977〜2009年度に作成した「全国戦災史実調査報告書」に沖縄戦の記載がない問題で、総務省が18年1月までにホームページで沖縄県部分を公表した。一方発行された

総務省のHP掲載を報じる記事の一部

崎山議員の提言実現

ギンネムが道路沿い、原野などで繁殖し、害虫（キジラミ等）が発生。在来種を阻害し、県土の2600㍍にも広がり、緊急対策が必要となっており、崎山議員の提言で新年度予算に約1600万円計上されました。地域からの要望が強かっただけに、県土から外来種をなくし、沖縄本来の琉球松やブーゲンビリアなどが咲く、美しい景観にしていきたいと、崎山議員は話しています。

長年の懸念 解決へ



○…外来植物「ギンネム」の駆除を訴えてきた崎山嗣幸県議（社民・社大・結）。県内全域に自生するギンネムは在来種の生育を阻害したり、ヤスデなどの害虫を発生させたりと多くの弊害がある。自身の根強い訴えもあり、県は2019年度予算に外来植物防除対策事業としてギンネム駆除に約1600万円を計上し「非常に画期的な予算だ。訴えが届いた」と喜びもひとしお。「小笠原は駆除に成功したと聞いている。県も見習って」と誇らしげに県へ提言した。

記者席

ギンネム（外来植物）防除対策予算計上

「全学徒隊の碑」補足版完成 崎山議員、学徒会の努力実る

住民を巻き込んだ沖縄戦は、多くの若い命をも失いました。生き残った元学徒隊の皆さんは「元学徒の会」を結成し、学友戦没者数の刻銘を求めてきました。会から要請を受けた崎山議員は県議会でたびたび発言し、強く支援。県は「全学徒隊の碑」に犠牲者を刻銘した補足版を、去る3月14日平和祈念公園内に設置しました。当日は学徒の皆さん、謝花副知事、新里議長、崎山議員と仲村みお県議が出席しました。



全学徒隊の碑（補足版）の前で元学徒の宮城政三郎さんと